

## 道泉連区ニーズ調査結果

### <検討の経緯>

日時	出席者	内容
R2. 12. 21	自治会長、地区社協会長	事業の説明①
R3. 04. 09	自治会長、地区社協会長、 交流センター施設長	事業の説明②、ニーズ調査の進め方について
R3. 06. 24	道泉連区関係者（約 50 名）	道泉地域力 ワークショップ（事業の説明）
R3. 07. 21		道泉地域力 ワークショップ（ニーズ調査）
R3. 10. 28		道泉地域力 ワークショップ（実証実験内容の提案）
R3. 12. 23	自治会長、地区社協会長、 交流センター施設長	事業概要（案）報告
R4. 01. 20	自治会長、地区社協会長、 交流センター施設長、町内 会長	事業概要の報告、出発地点及び広報の方法等調整
R4. 1. 27	道泉連区関係者（約 50 名）	道泉地域力 ワークショップ（事業概要報告、ちらし 配布）

### <ニーズ調査の結果（まとめ）>

- ・「商業施設」「小売店」「大型商業施設」及び「観光地」のニーズが高い
- ・商業施設では女性は大型商業施設、男性はホームセンターのニーズが高く、「月 1 回程度定期的に」を希望する声もあった
- ・「観光地」のニーズが高いのは、コロナ禍で外出できないこともあるものと思われる。事業は半日程度を想定している前提もあり、おおむね遠くの観光地よりも近隣を希望する声大きい

★詳細は別添参照

### <実証実験の方向性>

- ・商業施設、ホームセンターへの買い物ツアーを中心に実証実験を行う
- ・買い物に次いでニーズの高かった観光は、不定期にイベント的な開催を検討する
- ・道泉地区北部（安戸町、下陣屋町、上陣屋町）はワークショップにおいても交通の便の悪さを指摘する声もあり、実証実験では地区北部の現状も念頭に実施する

### <実験に向けて活用できる地域資源>

- ・市内大型商業施設とは、他事業（介護予防事業）で連携をしており、生活支援コーディネーターも連携を進めている（アピタ瀬戸店、イオン水野店）
- ・ホームセンターについては、生活支援コーディネーターが地域資源として発掘と連携を進めている  
→介護予防事業でも課題となっている男性の居場所の一つとなりうる可能性がある

